

そらで一服

懸け造り「閑雲軒」現代版

閑雲軒は、江戸時代の文人・松花堂昭乗と茶人・小堀遠州によって造られた、崖からせり出した「懸け造り」の茶室。その雲の中に浮かぶような茶室を現代版として表現しようと、市と東京藝術大学の北川原温研究室が協働で、軽くて持ち運べる「世界を旅する」新・空中茶室「そら」を制作しました。



抹茶を点てる体験をする来場者たち

茶会では、立命館大学茶道研究部の部員が来場者たちをおもてなし。「そら」に案内された来場者たちは、雲に包まれたような空間を楽しみながら、同部員が点てた八幡市産抹茶「浜乃風」をおいしそうに味わいました。

雲に包まれ!! お茶満喫

石清水八幡宮の山腹にあった空中茶室「閑雲軒」。その現代版として制作された一坪茶室を使った「新・空中茶室『そら』茶会in背割堤」を5月27日、淀川河川公園背割堤地区で市主催で開催しました。

⑤ 宇治茶を味わう来場者たち
⑥ 新・空中茶室「そら」で抹茶を味わう来場者たち



自分を支える心の技法

精神科医 名越 康文 さん 講演

5月19日、生涯学習開講式記念講演会が生涯学習センターで開催され、253人の来場者を前に精神科医の名越康文さんが「自分を支える心の技法」を講演しました。



来場者を前に講演する名越さん

「人生懸命に生きて、楽しんだりして、その日のエネルギーを出し尽くしているときや忙しいときでも、人のために時間を使うことで心のつながりがより強くなると話しました。

また、心をきれいにして本来の自分の能力を発揮するための心の磨き方として、自分から明るくあいさつすることや、自分や家族、出会った人の幸せを祈ることを挙げるなど、自分を支える心の技法を来場者たちに伝えていました。

明るくあいさつ／人の幸せを祈る

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

ごみの分別学んだよ

ごみの分別などを学ぶ出前授業が5月10、11日、橋本小学校で行われ、4年生114人が2クラスずつに分かれて取り組みました。この授業は、ごみについての学習を通して環境問題に関心を持ってもらおうと、環境業務課職員が講師となって実施されました。児童たちは、講師からごみは大きく分けて「燃やすごみ」「燃やさないごみ」「資源ごみ」の3つで、種類ごとにそれぞれの施設に運ばれるなどの説明を受け

環境業務課職員が出前授業

その後、収集車でごみを取り込んだり大型ごみをつぶしたりする様子を見学。また、ごみの収集も体験し、児童たちは作業の安全をしっかりと確認しながら、ごみの入った袋を収集車に取り込んでいました。

橋本小4年生 収集体験も



収集車でごみを取り込む様子を見学する児童たち

宇治川で人が流された

水難事故想定し訓練



水難者に見立てた人形を救助する隊員たち

水難事故の増加が予想される季節に備えようと5月15日から4日間、消防本部が宇治川御幸橋付近で水難救助訓練を行いました。この訓練は、水難事故現場における救助活動などの技術の向上を図ることを目的に、毎年、実施しています。

救助訓練では、「宇治川で人が流された」との想定で、署員たちが3人1組で2艇のボートに乗り

込んで捜索を開始。上流から流されてきた水難者に見立てた人形を発見すると、ボートを走らせて迅速に近づき、手際よく救助していました。

また、陸上から遠方の水難者を救助するための救命浮輪を発射する、空気式救命索発射銃の操作訓練も行なうなど、署員たちはさまざまな事態を想定して訓練に励んでいました。